

# 富士河口湖町立 教育センターだより

No.24



平成28年3月4日 文責 中澤 敦子



## 第5回富士山学習研究会

2月29日に本年度最後の富士山学習研究会が行われました。この日は、富士山科学研究所から吉本充宏先生と小石川浩先生をお迎えし「富士山火山防災～適切な避難はどうあるべきか～」と題して講演をしていただきました。

去る2014年の御嶽山の噴火、また今年2月5日には鹿児島県桜島が大規模な爆発を起こし、私たちはその報道に目が離せませんでした。噴石が真っ赤になって飛び散る様子に「もしもこれがこの地域だったら。」と、重ね合わせずにはいられません。頻繁に起こる関東地方の地震も含め、改めて防災意識を高め、十分な備えをしなくてはと思います。

今回吉本先生からは、火山災害と他の災害の違い、噴火物の種類、火山災害の実状、ハザードマップの読み取り方、避難計画ラインの実際、日常の備え、そして他教科と関連づけた災害軽減学習の必要性等、たくさんお話をいただきました。東日本大震災の事例を挙げてのお話の中では、火山噴火に備えて火山に関する正確な知識と判断力の強化がいかに必要かを考えずにはいられませんでした。各校の防災避難計画にも今以上の危機感を持ち改善の余地があることも先生より御指摘がありました。

火山（富士山）をよく知り、正しい避難行動を理解し、この町で安全に安心して生活していくことを子ども達に教えていくこと、「避難できる人材育成」が私たちの責務であると改めて学ぶことができました。



また、同日教育センターより、「平成28年度 富士河口湖町 富士山学習全体計画 年間指導計画」の冊子が配布されました。

教育課程の一部として根を張りつつある富士山学習は、各校で各教科を通じて地域の実情や発達段階に合わせ、各学年からのアプローチがなされています。それらの実践計画を目にすると、富士山学習研究会を立ち上げて3年目、富士河口湖町の富士山学習プログラムが充実しつつあることを感じます。各校での富士山学習の開発に役立てていただきたいと思います。

